

たこ天村新聞

第3号

2024.6.28

[制作]
PAS心理
教育研究所

一日たこ天 開催される

11名で作ったワン デイのたこ天村

2024年第1回の「一日たこ天」が6月15日(土)にPAS心理教育研究所で開催された。ワンデイの「一日たこ天」は、年に1回の夏のビッグフェス「たこ天」が日常的にも必要な時代になってきたというところで、コロナ禍の2020年から開催されている。今回、10代の若者から大人まで、セラピストを合わせて11名で一日のたこ天村をオープンした。

一日たこ天は、全員で語り合う大グループの時間、自身の興味関心をもとに活動するインタレストの時間、昼食や飲み物片手に交流するコミュニティの時間から構成される。今年度よりインタレストの時間にはスペシャルメニューが用意される。今回は中村先生による「自尊心セラピー」が開催され、5名が参加した。

4月のたこ天村開きで話を聞いて参加した高校生の参加者は、一日、たこ天村を満喫し、夏のたこ天への参加を表明した。20代男性の参加者は、夏のたこ天でのコミュニティ作りへの呼びかけを始めている。

参加者らは、一日たこ天村で過ごし、心も身体も動かし、元気を活性化していた。また自分についての何らかの気づきを得て帰っていった。たこ天村役場企画課によれば、次回の一日たこ天は、2025年3月8日(土)に開催を予定しているとのこと。

インタレストで小さな アクション

一日たこ天インタレストの時間に、若者2名が体を動かしたいと近隣の公園でフリスビーをしていたところ、思い切り投げたフリスビーが公園管理棟の屋根の上に乗ってしまふ小事件が発生した。公園管理棟の職員では回収ができないため、後日区の職員が回収するということで若者は手ぶらで村に帰ってきた。若者たちは互いに責任をなすりつけるようなやり取りをしながらではあったが、村役場企画課長に事の顛末を報告し、返却を約束。後日、約束通り返却した。本紙の取材に対し若者の1人は「たこ天村のピンクのフリスビーは思った以上にかなり飛ぶから要注意」と語った。

空梅雨に咲く一輪の紫陽花

インタレスト談話

一日たこ天のインタレストの時間、たこ天村に一輪の紫陽花が咲いた。素敵な浴衣を着て参加した女性が、インタレストの時間に浴衣に映える活動としてうちわ作りに取り組んだ。女性はPASに生けられた紫陽花を見て、絵を描き、うちわを飾った。

小生はそれを見守りながら、隣で自身のインタレストとしてこの新聞作りに取り組んだ。小生が魅力を感じ、記事にすることを提案すると女性は快諾してくれた。

「自分の魅力を語れるか? それを受けて立てるか?」

交わす言葉は少なくとも、魅力が行き交う時間であった。(花井)

